

風しんに気をつけましょう！

～全国で風しん患者が増加しています～

現在、関東地方（特に東京都及び千葉県）で風しんの届出数が大幅に増加しており、多くは30～50歳代の男性を中心に発生報告が増加しています。

今後、全国的に感染が拡大する可能性がありますので、注意してください。



風しんとは？

- ★風しんウイルスによっておこる急性の発疹性感染症で、潜伏期間は2～3週間で、主な症状として発熱、発疹、リンパ節の腫れ（3つの主な症状）が出現します。また、感染しても明らかな症状がでない人が約15～30%程度います。
- ★通常は自然に治りますが、まれに脳炎になったり、血小板という血液の成分が減少して、皮膚に紫斑が現れる人もいます。関節が痛くなる人もいます。症状がでる前後の約1週間は、周りの人にうつす可能性があります。
- ★妊娠20週頃まで（とくに、妊娠初期）の女性が風しんにかかると、おなかの赤ちゃんが耳や目、心臓に障がいをもって生まれる「先天性風しん症候群」という病気にかかってしまうことがあるため注意が必要です。



感染経路

- ★感染者の咳やくしゃみ、唾液のしぶきに含まれるウイルスによって他の人にうつります。（飛まつ感染、接触感染）

予防方法について

- ★最も有効なのは予防接種（ワクチン接種）を受けることです。
先天性風しん症候群を防ぐためには、妊娠の可能性のある女性だけでなく、その周囲の人のワクチン接種が大切です。過去に風しんにかかっていない人、予防接種を受けたことがない人（昭和54年4月1日以前に生まれた男性のワクチン接種機会は0回です）は、予防接種（任意）を受けることをお勧めします。
- ★妊娠中は予防接種が受けられませんので、女性は妊娠前に予防接種を受けることをご検討ください。妊娠中の方は、可能な限り人ごみを避け、マスクを着用しましょう。